

令和7年度鳥取市総合教育会議（第3回）会議録

1 日 時 令和8年2月9日（月） 13時30分 から

2 場 所 鳥取市役所本庁舎 7階 第2委員会室

3 出席者 〔構成員〕

市長：深澤 義彦

教育長：河井 登志夫

教育長職務代理者：前田 哲雄

教育委員：中井 英子

教育委員：谷口 なおこ

〔市長部局〕

副市長：羽場 恭一

総務部長：塩谷 範夫

〔教育委員会事務局〕

副教育長：徳高 雄一郎

次長兼教育総務課長：山名 常裕

次長兼学校教育課長：浅見 康陽

次長兼総合教育センター所長：狩野 司

校区審議室長：岡部 孝志

学校保健給食課長：蔵増 彩

生涯学習・スポーツ課長：浜田 哲弘

文化財課長：佐々木 孝文

中央図書館長：中島 泉

学校教育課参事（こども発達支援センター所長）：平戸 由美

教育総務課長補佐：前田 英樹

〔傍聴者〕 1名

4 会議次第

(1) 次期鳥取市教育振興基本計画（最終案）について

(2) 鳥取市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画（案）について

5 会議概要

1 開 会 13時30分

(副教育長)

ただいまより、令和7年度第3回鳥取市総合教育会議を開催いたします。

本会議は、地方教育行政の組織および運営に関する法律に基づきまして、市長と教育委

員が連携して教育行政の推進を図ることを目的として開催するものでございます。

住川委員は、大雪による交通機関の運行休止により、県外出張からお戻りになることができず、急遽欠席される旨の連絡をいただいております。

それでは、本日の議題につきましてご協議いただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

2 市長あいさつ

本日は大変ご多忙の中、また雪により大変足元の悪い中ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

教育委員の皆様におかれましては、日頃より、本市教育の充実発展に多大なるご尽力を賜っておりますことに、改めまして心より感謝申し上げる次第でございます。

本日は議題が2件ございまして、ひとつは次期教育振興基本計画の案についてであります。これにつきましてはこれまでも、教育委員の皆様にもいろいろご意見を賜っているところでありますが、このたび市民政策コメント（パブリックコメント）でいくつかご意見をいただきました。これを踏まえた案につきまして、改めてまたご意見を賜りたいと考えております。またもう1件は、鳥取市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画、大変長いタイトルであります。この案がまとまりましたので、これにつきましても、ご意見を賜りたいと考えているところであります。

ご承知のように今、国の方では、学校給食の無償化ということで、小学校の給食については無償化しようということが進められてきたところでありますが、詳細を聞いてみますと、完全な無償化ということではなく、最初は小学校の学校給食費、月額4,700円だったんですが、これが5,200円になりました。その半分は国が負担をして、残りは地方でというようなことで、その5,200円を超えた分についてはそれぞれの市町村が負担する、そういった案が示されているところであります。それぞれ市町村によってどのように対応していくのかということが非常に難しいひとつの課題になっておりまして、近隣の自治体等の取り組み状況も参考にしながら、鳥取市として来年度どうするのかということも決めていかなければならないわけでありまして、いずれにいたしましても、将来を担っていく子どもたちを育ていくということが、我々の責務でありますので、これからも教育委員の皆様と一緒に、将来を担っていく子どもたちを健やかに育ていく、そのような教育の推進に努めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

実り多い会議となりますよう、心からお願い申し上げましてご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

3 議題

(1) 次期鳥取市教育振興基本計画（最終案）について

教育総務課長（資料に基づき説明する。）

【質疑】

（前田委員）

市民政策コメント 16 番の意見「魅力ある学校づくり」についてのことです。ご意見の内容が必要だろうということで「魅力ある学校づくり」を外して「児童生徒が安心して過ごすことができる学校づくり」に入れ替えるということだと思うんですが、「魅力ある学校づくり」がそういったことも含んでいるのではないかと理解しています。生徒指導提案を見ても、魅力ある学校づくり・学級づくりが不登校の未然防止なんだと、見出しがそうなっていますよね。

そして、その中の具体的な事例としてこういうことが挙げられているということで「魅力ある学校づくり」は別のところでも上がってますけども、学校現場でも不登校の未然防止は、魅力ある学校づくり、特に学級づくりの方を意識されたような計画がよくあるんですけども、この変更される中に何とか魅力ある学校づくり学級づくりという文言を残していただいた方が個人的にはいいんじゃないかなと思ったりしますがいかがでしょうか。

(深澤市長)

どなたに答えていただきましょうか。

(総合教育センター所長)

おっしゃる通り、魅力ある学校づくり学級づくりが不登校の児童生徒にとって、あるいはそうではない全ての児童生徒にとっての居場所になると思います。そんな意味も入っているというところでのこの文言に変更したんですが、やはり文言があった方が良いというところであれば、またちょっと入れるか研究してまいりたいと思います。

(深澤市長)

はい、また検討研究されるということですがいかがでしょうか。

(前田委員)

この基本計画の 13 ページに別の項目で「魅力ある学校づくり」のことが触れられているので、そこで大きく取り上げて、不登校のところでは中身の方のことが書いてあるということで理解はしたんですけども。特にこだわるものじゃないですけども、現場の様々な、経営計画などを見たときに、魅力ある学校づくりというのは、不登校やいじめ等も含めて、対応の柱に挙げておられるところが多いのはこういった流れかなと思ったものですから、ご検討いただけたらと思います。

(深澤市長)

はい、ありがとうございました。その他ご意見ご質問等ございましたらお願いします。特にないようでございますので、また何かありましたらまた後ほどにでも。それではこの件についてはご了承いただけますでしょうか。

(2) 鳥取市立学校の教育職員に関する学校業務量管理・健康確保措置実施計画 (案) について

学校教育課長 (資料に基づき説明する。)

【質疑】

(中井委員)

働き方改革と保護者や生徒たちの満足度は、どうしても反比例するような関係にあるの

かなというところがすごく難しいと思っています。

パブコメの5番に「チーム担任制になってから連携しにくいです」というお母さんの意見があり、それに対して「どなたにでもご相談ください」と回答してあるんですけども、多分、担任が変わって相談しにくくなったというようなことかなと思いました。

先日、市町村教育委員会研究協議会の研修にオンラインで参加したんですけども、鳥取の教職員の方は有給休暇の取得が目標達成しているということで、他県と比べても有給休暇をしっかりと先生方がとっておられるということがわかったんですけど、それは教育委員会の取り組み、「やってみよう！でー」の導入などの対策がしっかりと成果を出しておられるのだなということを思いました。「やってみよう！でー」に関しても、一方でやはり保護者の方からは不満が出たりということもあり、働き方改革を進めると、どうしても生徒の不安や保護者の不満が増えがちなところがどうしてもあるのかなというふうに思います。そこは多分しっかり考えておられると思うんですけども、根本的に人員を増やすってような、募集を増やすってようなことは計画にはないんでしょうか。やはり教育現場に人手が足りないのかな、と思うところもありまして、これは民間、全ての業種において大変な問題なので、教育現場だけの問題ではないかもしれないのですが、職員の数を増やすという対応もすごく有効だと思います。そのような計画はあるのでしょうか。

(深澤市長)

職員数を増やすかどうかという考え方を答えていただけますか。

(学校教育課長)

中井委員さんがおっしゃられるように、学校で働き方改革を進めていくと保護者や子どもたちの満足度が下がるというのは一方ではやはりあるのかなというふうに思っています。今までずっと学校が中心で、本当にたくさんのことを抱えてやってきたってことを今整理している段階であるので、今までやってきたことをなぜやってくれないのかとか、今までとなぜ変わるんだってところがあるのかもしれないですけども、やはりそこは整理をして、教員もできることに限りがありますので、より子どもたちとしっかり向き合う時間がつくれるような整理をしていきたいというふうに思っております。

先ほどおっしゃっていただいたチーム担任制にしても、始まったばかりですので、その辺りもまた改善しながら、より保護者の方、子どもたちにも安心してもらえるような体制を作っていきたいというふうに思っております。

その中で、人を増やす、募集を増やすというところについて、そこは我々も本当に大事なことだと思っております。教職員の定数というのは決まっているものですので、国が定める定数は変わらないのですが、あとはそこにプラスアルファでどれだけ支援をできるスタッフをつけていくかということになってきます。

今学校には、県費負担教職員だけではなく、市費の職員も入りながら子どもたちの支援にあたっているところで、特に特別支援教育支援員は、なかなか人を増やすのが難しい時代であって、学校への配置が毎年増えております。今年度は6名増えましたし、来年度も増やしてもらおうように今要求をしているところです。そのように少しずつ市としてもできることをやっていますが、どうしても全体的な人手不足、教員のなり手不足というのが大

きな課題ですので、その辺りも引き続き、なんとか人が少しでも学校に配置できるように努めていきたいというふうに思っております。

(深澤市長)

はい、よろしいですか。その他ご意見、ご質問等ございましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょう。

(前田委員)

4ページの円グラフの中の項目で、「担任業務」の時間外が結構な割合があるんですけども、具体的にどんな業務ですか。

(深澤市長)

では事務局のほうでお願いします。

(学校教育課長)

この担任業務の細かいところまでは調査をしていません。これは教員の自己申告で、時間外を上げたときに、どの業務で時間外をしていたかということをご自己申告してもらうので、細かいところまでは把握できていませんが、おそらく自分が担任していることのノートチェックや、あとは子どもたちが提出したものに朱を入れるとか、そういうようなところになるのかなというふうには考えております。

(前田委員)

そういうことかなと思ったんですけど、多岐わたりいろいろあると思いますが、それがチーム担任制であれば軽減されるというような捉えもあるんだろうと思います。以前の定例教育委員会で、僕の考えるチーム担任制の課題だとかデメリットはたくさん話をさせていただいたんですが、鳥取市教委としては、チーム担任制をこれから推奨していくというスタンスなんですか。

(学校教育課長)

市教委として全面的にこれを全ての学校で導入するというふうには考えていません。学校の実態であるとか、スタッフ、教員のメンバーによって、適している適していないがあると思いますので、全ての学校にというふうには思っておりませんが、ひとつの方法として、有効である、成果が上がっているという学校もありますので、それを横展開していきたいなということは考えています。

(前田委員)

先日、県教委主催の教育委員会委員等研修会で県教委に説明してもらった中にも、チーム担任制について話があったんですが、これは県ともやっぱり足並み揃えてやっておられるような方向なのではないでしょうか。

(学校教育課長)

県の方も事業を立ち上げて、実践校をいくつか県内で設けて、その成果発表等もしていることあるので、県としても、取り組みを進めていきたいというふうに考えています。鳥取市と県が一緒になってやっているわけではないんですけども、県の方もそのように推進していきたいと考えている事業であります。

(前田委員)

かなり課題といいますか、デメリットを含んでいるなと思います。かなり明確に、克服というか、解決策を示された上でやらないと。やりながら課題を見つけて、それを解決しながらやっていく、というものじゃないように思います。極力慎重に進めていただけたらという思いであります。単位のことがどうしても中心になってくるので、この教育委員会で進めている自治力の育成ということに対しても、本来学級活動（1）の充実が前提であることとの整合性が問われるのではないかなと思いますし、そもそもの教育課程の中に位置づけられている、特別活動との整合性などが図られないまま進められていくというのはどうなのかなと思ったりもします。それから、県の育成指標の中にも、学級経営がかなり評価の指標として挙げられている中で、それとの整合性はどうなってくるのかとかですね。県と市でやっているのであれば、その辺りも考えていかれるんだろうなと思ってお聞きしたところです。急いで進めないで、慎重に慎重に進めていただいた方がいいと思います。

（谷口委員）

4 ページの円グラフについて、先ほど前田委員さんが、担任業務というのはどういうことか、ということをおっしゃったんですけど、私は逆にこの分掌業務の内容が知りたいです。というのも、小学校も中学校も義務教育学校も分掌業務と担任業務で大幅占めていると思うんです。この中の分掌業務というのが、授業準備等で分けられるようなことなのかなというのが知りたいのと、小学校では担任業務がすごく多いけど、中学校になると少なくなっています。結局中学校は学科というか、担任がひとり、数学の先生は数学ばかり教えるという感じになっているじゃないですか。小学校もそのように教科担当みたいな感じにして、担任の先生は1人という方が、チーム担任制で不具合のあることにも対応できるのかなってというのは思ったのでちょっとその点を聞かせて欲しいです。

（学校教育課長）

まず分掌業務の中身について、これも詳細については自己申告であるので把握できていないんですけども、学校の教員は担任以外にも、例えば体育主任であるとか、生徒指導主事であるとか、いろいろな役割を担っていますので、学級担任の業務とか教材研究に関わらない、そのような与えられた役割の仕事を、放課後、時間外の時間にやっているということで把握をしております。

それから中学校の担任業務が小学校に比べて少ないのは、今委員さんに言っていたとおりというふうに我々も把握していて、やはり小学校に比べて教科担任制ですので、学級の担任としての業務はそこまで多くなくて、教科の方でどちらかという時間がかかっているのかなというふうに把握をしているところです。

小学校の方も、先ほどの計画の中にチーム担任制というのをひとつの方法として入れていけないかということも載せさせていただきましたけども、やはりそれをする事で教材研究の教科が絞られて、時間外勤務時間の削減に繋がったという報告もありますので、ひとつの方法として展開していきたいと思っております。また、それにチーム担任制を絡めた方が効果的なのか、それとも担任は担任として置いておいて教科担任制だけでやった方が効果的なのかというのは、各学校でまた判断しながら実施していくことかなと考えております。

(深澤市長)

よろしゅうございますか。その他ご意見ご質問等ございましたらお願いしたいと思います。そういたしますと、ご質問等ないようでございますので、この件につきましては先ほどご説明していただきました内容で、とりあえずこれを承認いただくということでよろしゅうございますでしょうか。

4 その他

(中井委員)

先週、関西の方から商工会議所の女性会の方が鳥取に観光に来てくださりまして、冬ですし、砂の美術館も閉まっておりますし、仁風閣も工事中で、2日間来られたんですけども観光をどこに行こうかすごく迷いました。雪の砂丘を見ていただいてそれはそれで喜んでいただいたんですけども、一番喜ばれたのが鳥取城跡でした。当日は仁風閣の館長にガイドをしていただいたんですけど、来られた方に、こんなに壮大な、立派な石垣があると思っていなかったと言われて。前の方から石垣を見ていただいて細かい説明を聞きまして、裏の宝隆院庭園の方に回ってそちらの説明を聞いて、そこから天球丸の見えるところまで一緒に上がっていただいて、天球丸のお話を聞きました。その日は雪で櫓門の通り抜けができなかったんですけども、そこ一帯のお話を聞いて。ひとり福井の方だったんですけども「福井にも城跡はあるんだけど、こんなに大きくない」と言われていて。もうひとは京都の方だったんですけども、歴史の話に興味を持たれて一生懸命いろいろお話をされて、話も盛り上がりまして、次は仁風閣の修繕が終わったときに、また冬ではないときに来てみたいということをおっしゃってました。ゆくゆくは3階櫓が建ったらそこにこういう感じで、とか、いろいろな話をさせていただいたんですけども、やはり市民よりも県外の方がそういうところに行かれるとすごく感動していただけるんだな、観光地としてのポテンシャルがすごく高いなっていうのを思いました。

一方、市民の方があまり城跡の成り立ちや歴史知らないんじゃないかなと。いつもこの話になって申し訳ないんですけども、やっぱりそういうことを教えてもらうっていうのもこの教育現場のひとつの大きな使命なのかなというふうに思いました。

鳥取砂丘も吉田璋也さんが国立公園に指定されるにあたって大変尽力されたということも、私が今、商工会議所で観光ビジョンの委員会に入ってますので、鳥取の観光地の歴史などについてずいぶん勉強していろいろ知りました。それまで、自分はすごく近くに住んでいますが、砂丘の歴史とか成り立ちとか、城跡のところに銅像が立っている吉川経家が誰なのかとか、あまり詳しくは知らなくて。池田公爵の話とか、本当は鳥取市民がみんな知っていて、県外から来られた方に説明できたらいいなっていうふうにすごく強く思いました。

そのような中で、パブコメ4番に、人口増加の政策をとるところのご回答に「鳥取市の志を活用する」ということが書いてあります。「鳥取市の志」という本は、今どういう方が載っているのかはわかりませんが、次改定されるときに、やっぱり観光地として、城跡等に来られる方にも説明できるように、城跡に関わる方のことや、鳥取砂丘に関わらず

吉田璋也さんのことなどをぜひ入れていただいて、授業でするのは難しいということはお返事いただきましたので、こういう教材をもって鳥取市民に広く勉強をしていただくことをぜひ取り入れていただけたらと思われましたので、希望として、ご意見させていただきました。

(深澤市長)

はい、ありがとうございました。これはどなたに答えていただいたらよいでしょうか。

(文化財課長)

ありがとうございます。ずっと昔はオリジナルの教材のようなものが作られていて、そういうところで今のような話を紹介させていただいたんですけども、やはりカリキュラム的にそれが相当難しいということもあるようです。

市の歴史博物館ですから、県の博物館でもそうですが、できるだけ紹介するように努めてはいるんですけども。やまびこ館ができた当初は、小学生向けのコンテンツが多かったんですけども、最近内容のレベルを上げすぎてるところもあるので、もう少し気軽に小・中学生なり地元の方に足を運んでいただいて、そういうことを知っていただくような取り組みができればいいかなというふうに思っております。

県立博物館も、当面は現状のような展示になりますので、その辺仁風閣の修理期間中に少しずつでも、現地の方に足を運んでいただくような取り組みをしていきたいと考えております。

(河井教育長)

まさに鳥取城の関係、中ノ御門渡櫓門のあたりは、去年の4月の開門式で多くの方に参加していただいた賑やかさというのは私も非常に印象に残っております。やっぱり鳥取市の大きな観光の資源、そして仁風閣もリニューアルされればなおさらというふうに思っております。鳥取砂丘ばかりではなく、滞在型の観光のまたひとつの資源とは認識しております。大きなものだと思っております。また子どもたち、市民の皆様方にもいろいろ知っていただくことも大切だと思っております。ご意見ありがとうございます。

そして、教育振興基本計画のことについてです。最終的には3月の定例教育委員会で正式決定ということになります。その間には市議会の文教経済委員会で説明させていただいてご意見を伺います。また、製本以外にも概要版というのを作りますので、多くの方に手に取ってもらうような資料を作りまして、広く広報に努めていきたいというふうに思っております。また、事務局の職員には、この計画の策定だけが全てではないわけで、作って安心ではなくて、やはりしっかりこれを基に施策を推進していく、そして進捗管理をしていく、というのを、ともに汗をかいていきたいと思いますということをお願いしておるところでございます。

2点目の実施計画の関係で、教員の人材のことについて若干お話をさせていただきます。先ほど浅見次長より、市費の負担をする会計年度任用職員、特別支援教育支援員の増員について話がありましたが、県費負担教職員の関係で、小学校で30人学級というのが終わりました。今度は中学校、国の方が40人から35人にします。鳥取県は独自に現在でも、中学校1年が33人、そして中学校2年3年生が35人。国が基準をおろしてきますのでそれ

を今、県教委と一緒に、中学校の1クラスの人数を今検討しているところでございます。またここも鳥取バージョンといいますか、教職員の確保も大変なところはありますけども、人的なものを考えていくような形でおりますので、ちょっとご紹介をさせていただきます。以上でございます。

(深澤市長)

はい、ありがとうございます。よろしゅうございますでしょうか。

その他、ございますでしょうか。

(前田委員)

部活動の地域展開の状況をちょっと聞かせてもらえたらなと思っています。9年度からは一応完全実施に入るということで、8年度で準備が整ってというような形かなと大筋思うんですけど。指導者だとか、保護者の負担とかいろいろ課題があると思いつながら大変な状況かなと思ったりもしてるんですけど、簡単でいいですのでちょっと現状を教えてくださいましたらありがたいなと思います。

(学校教育課長)

部活動の地域展開ですけれども、令和9年度の完全実施に向けて、来年度が勝負の年かなというふうに思っているところです。今現在、認定クラブ(休日に子どもたちの、いわゆる受け皿となるようなクラブ)をどういう条件で認定していくかというようなガイドライン的なものを策定しました。各学校から推薦が上がってきて、それに照らし合わせて、教育委員会で認定し、支援をしていくというような体制を整えたところです。それからそのクラブの指導者に対してのいわゆる謝金というか、指導に対する対価というのがやはり必要になってくると思います。

それができれば保護者負担も少なくなってくると思いますので、できるような予算確保に向けて動いているところで、極力保護者の負担を減らして、実施ができるような体制を整えるために今検討しているところです。

既に来年度から、いくつかのクラブが認定要件を満たしていそうなので、そのクラブをモデル的に1年間、教育委員会として支援をしていきながら、令和9年度に向けて本格実施の体制を整えていきたいなというふうに思っています。

(深澤市長)

ありがとうございます。よろしゅうございますでしょうか。

(中井委員)

もう1点、来られた方に聞いた話です。福井の方で、福井は新幹線が開通して、すごく賑わってるんだろうと思っていまして、実際に観光客も増えているということなんですけども、駅前の複合施設、どうしても商業施設は空きが出ているという話をされていました。ちょうど鳥取もリ・デザイン会議でこの議論がなされている最中だと思うんですけども、教育委員会の所管である図書館ですとか、文化施設のあり方、文化施設の統合ってというような話もあります。駅前の複合施設に何を持ってきたらいいのか、何が駅前にできるのが本当にいいのかという議論をリ・デザイン会議でしていただいていると思うんですけども、実際それを持ってこれるのかということは、教育委員会の方とも議論が必要な部分だと思

います。駅前の複合施設について、倉敷など視察にも行ったんですが、どうしても民間の商業施設はなかなか埋まらないし、埋まっても出ていって空き店舗になることが多いというところをいろいろとここで聞きます。そう思うと賑わいをつくれる公共施設を入れるというのもすごく大事なことになるのかなと思います。そう考えますと、図書館というのもいいのかなと思っていて。それが可能かどうかは私もわからないんですが。そういったことも含めて、リ・デザイン会議と教育委員会との連携をしっかりとっていただいて、何を作るのがいいのかということをしかりとまた考えていただければというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

(深澤市長)

はい、ありがとうございました。これにつきましては、教育長さんが。

(河井教育長)

駅前の商業施設についてのご意見をいただきましてありがとうございます。

図書館というお話も出ました。この計画を練っております市長部局の担当課とは、市立図書館とも十分連携をとり話をさせていただいておりますし、またそういうところの専門家の方のお話を聞かせてもらったり、他のところの図書館への視察を一緒に行ったりしております。中身のことにしましてはこれから、リ・デザイン会議等によって、また話が深まっていくと思っております。教育委員会といたしましても情報をしっかりと伺いながら、一緒に連携を取りながら考えさせていただくというようなことになると思っております。ということをご理解いただけたらというふうに思います。以上です。

(深澤市長)

ありがとうございました、よろしゅうございますでしょうか。そのほか、何でも結構ですので、ぜひ。

(前田委員)

議題の中の話ではないんですけども、高校の話です。今後また大規模な統廃合が進むということで、僕の地元にも高校があるんですけども、少人数の町なのでぜひとも残っていききたい。町を挙げてバックアップしているけれども、僕の地元の高校は市内にありますから、市の事情としてそこだけ応援するわけにはいかないという話をよく聞くんですけども、でも地元からしてみると、その高校がなくなるというのは大変なことです。ますます人口減となる。子どもたちが中学校卒業したら全員、町外に出るという状態が初めから作られていくわけで、なんとかして活性化支援というような取り組みできないかということで同窓会なども絡んでいろいろ動きを取ろうとしているが、なにぶんにも毎年かなりの定員割れが続いている中で、本当に残っていけるかという状況。そういう中で、市として何かご支援をいただけるような、何かそういった可能なことがないのか、検討していただけたらありがたいなというお願いです。

(河井教育長)

鳥取市としての支援の部分につきましては、市長部局の担当部門がありますのでちょっと十分にご説明できないかもしれませんが。高校再編につきましては、まず13年度ということがありました。私どもが県教委から伺っておりますのは、13年度のときには、職業

高校の関係を若干整理統合しようじゃないかということで、確か鳥取湖陵高校にある工業系の学科と鳥取工業高校を統合するというような段階で、それが西部でも中部でも同じような学科再編を、ということで伺っております。

また13年度以降に、それ以外の生徒減少への対応が出てくるということだと思っておりますので、例えば今言われたような高校のことにつきましても、これからご審議されるのかなというふうに思っております。

そしてその高校に対する支援ですけれども、岩美や日野では1町1高校というのがあります。かなり手厚い支援があるだとか、コーディネーターを雇ってというようなこともあってます。鳥取市の場合には他にも高校がたくさんありますので、なかなかということとは十分ご理解いただいているというふうに思っております。ただ、その中でも高校の方が考えて、特に私が存じ上げておりますのは、県外からの入学者への支援について、例えば施設、学生寮ではないんですけども、そういう住まいを整備する場合については、県の方がご支援など、そして実際子どもたちが入学してきた場合の、寮母さんというか、持ち主の方への運営支援というのを、市の方が確か行っており、現在はそのようなところで鳥取市として支援を行っているということを私の方は認識しております。以上です。

(前田委員)

ありがとうございます、よろしくお願いします。

県外へ呼びかけているんですが、実際には住んでもらう場所がないんですね。なくて、なかなか受け入れられないというのが大きな課題になっていまして、その辺りはもうちょっと支援していただけたらありがたいなと。住む場所については今お聞きした通り、いろいろご支援があるんだろうと思いますけれども、そもそも場所がないというのが本当に苦しんでいるところです。

(深澤市長)

はい、ありがとうございました。その他、よろしいでしょうか。特にないようでございますので、以上をもちまして本日の議題全て終了いたしました。

これ以降の進行は事務局の方でお願いします。

5 閉 会

(副教育長)

ご協議いただきありがとうございました。

本日の会議につきましては、速やかに議事録を作成しまして、鳥取市の公式ホームページに掲示いたしますのでよろしくお願いいたします。

これをもちまして総合教育会議を閉会させていただきます。皆様、どうもありがとうございました。

閉会 14時45分